

男女共同参画社会をつくる

6月29日に開催しました「かしわら男女共同参画フォーラム」に、たくさんのご来場をいただきありがとうございました。柏原市立男女共同参画センターでは、引き続き男女が共に学べる場として講座を開催しております。しかしながら、育った環境の違いであったり、所属する集団の中での固定的な性別役割分担意識による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）の存在が、男女共同参画の取組の発展が十分でない要因の一つとして挙げられています。今回は、アンコンシャス・バイアスの気づきに向けた取組を紹介いたします。

アンコンシャス・バイアスによる影響は多岐にわたる

何かを見たり、聞いたりしたときに、無意識にきつこうだ！と思
い込むことは誰にでもありうるものであり、日常にあふれています。

例えば、次のように思うことはありますか？

- ☐ 「介護をしている」と聞くと、親を介護していると思う
- ☐ 「親が乳がん」と聞くと、母親のことだと思う
- ☐ 「親が単身赴任中」と聞くと、父親のことだと思う
- ☐ 「友人が時短勤務中」と聞くと、女性の友人と思う
- ☐ 「私にはどうせ無理」と思うことがある
- ☐ 性別による向き、不向きがあると思う

これらはいずれも、とっさに思ったことと、実際とが違う場合があります、アンコンシャス・バイアスとなりうる例です。

ところで、ここでひとつ思いめぐらせていただきたいことがあります。それは、アンコンシャス・バイアスに気づかずにいると、いったい何が問題となるのか？いったいどのようなネガティブな影響に発展する可能性があるのか？ということです。

例えば、「私にはどうせ無理だ」等、自分に対するアンコンシャス・バイアスに気づかずにいたとしたら、挑戦する機会を逃したり、自分の可能性を狭めたり、成長の機会を逃す等、様々な影響が考えられます。

また、「女性には無理だ」等、相手に対するアンコンシャス・バイアスに気づかずにいたとしたら、相手を知らぬ間に傷つけてしまったり、活躍の機会を奪うなどの影響が考えられます。

アンコンシャス・バイアスは、自分や相手など対象によって、またその状況によっても無数にありえるため、考えられる影響也多岐にわたります。組織や社会の面でみると、一人ひとりがイキイキと活躍できなくなったり、人権侵害やハラスメント、コンプライアンス違反、新しい技術や商品が生まれなくなるといったことがあげられます。また、個人の面でみれば、キャリアや人間関係、生き方等に影響する可能性もあります。

〈アンコンシャス・バイアスによる影響例〉

社会・組織において	個人において
・男女共同参画社会が実現できない ・一人ひとりがイキイキと活躍できない ・人権侵害・ハラスメント問題 ・コンプライアンス違反 ・新しい事業・商品・技術がうまれない ・職場の安全衛生面への影響 ・広告や企業メッセージ等の炎上 ・仕事との両立への影響(介護や病気治療等) 等	・固定的な性別役割分担意識が生まれる ・進路、進学、キャリア等への影響 ・新たな挑戦ができない ・成長の機会を失う ・人間関係のトラブルに繋がる ・正常性バイアス等による災害時の影響 ・働き方、生き方の可能性を狭める ・QOL(クオリティ・オブ・ライフ) への影響 等

「アンコンシャスバイアスに気づこう！」の日

8月8日は、「アンコンシャスバイアスに気づこう！」の日として、記念日制定されたことをご存知でしょうか？

この記念日は、一人ひとりが自分のアンコンシャス・バイアスに気づこうとすることによって、可能性が無限にひろがることを願って、制定されたものです。

私たちは、あたりまえと思うことが違ったり、学歴、職業、性別、性自認、性的指向、理想とすることが違う等、一人ひとり異なります。そうした、違いを尊重し、一人ひとりがイキイキとする組織や社会づくりをめざすにあたって大切なこと。それが、「私」を主語に、アンコンシャス・バイアスに気づこうとすることだと思います。

<出典>

内閣府男女共同参画局発行「共同参画」令和6年6月号

(執筆者：一般社団法人アンコンシャスバイアス研究所 守屋智敬)
の記事を許諾を経て転載

各個人の無意識の思い込みは自分では気付きにくいことが多く考えられます。自分の持つ思い込みを理解することで、偏った決めつけであったことが認識でき、相手を気遣うことでコミュニケーションがよりよく行われるのではないかと思います。

「私」を主語に、上手に自分の気持ちを伝えられれば、いい関係性を保てるのではないのでしょうか。